

# CA Virtual Assurance for Infrastructure Managers

リリースノート

リリース 12.8



このドキュメント（組み込みヘルプシステムおよび電子的に配布される資料を含む、以下「本ドキュメント」）は、お客様への情報提供のみを目的としたもので、日本 CA 株式会社（以下「CA」）により随時、変更または撤回されることがあります。

CA の事前の書面による承諾を受けずに本ドキュメントの全部または一部を複写、譲渡、開示、変更、複本することはできません。本ドキュメントは、CA が知的財産権を有する機密情報です。ユーザは本ドキュメントを開示したり、  
(i) 本ドキュメントが関係する CA ソフトウェアの使用について CA とユーザとの間で別途締結される契約または (ii) CA とユーザとの間で別途締結される機密保持契約により許可された目的以外に、本ドキュメントを使用することはできません。

上記にかかわらず、本ドキュメントで言及されている CA ソフトウェア製品のライセンスを受けたユーザは、社内でユーザおよび従業員が使用する場合に限り、当該ソフトウェアに関連する本ドキュメントのコピーを妥当な部数だけ作成できます。ただし CA のすべての著作権表示およびその説明を当該複製に添付することを条件とします。

本ドキュメントを印刷するまたはコピーを作成する上記の権利は、当該ソフトウェアのライセンスが完全に有効となっている期間内に限定されます。いかなる理由であれ、上記のライセンスが終了した場合には、お客様は本ドキュメントの全部または一部と、それらを複製したコピーのすべてを破棄したことを、CA に文書で証明する責任を負いません。

準拠法により認められる限り、CA は本ドキュメントを現状有姿のまま提供し、商品性、特定の使用目的に対する適合性、他者の権利に対して侵害のないことについて、黙示の保証も含めいかなる保証もしません。また、本ドキュメントの使用に起因して、逸失利益、投資損失、業務の中断、営業権の喪失、情報の喪失等、いかなる損害（直接損害か間接損害かを問いません）が発生しても、CA はお客様または第三者に対し責任を負いません。CA がかかる損害の発生の可能性について事前に明示に通告されていた場合も同様とします。

本ドキュメントで参照されているすべてのソフトウェア製品の使用には、該当するライセンス契約が適用され、当該ライセンス契約はこの通知の条件によっていかなる変更も行われません。

本ドキュメントの制作者は CA です。

「制限された権利」のもとの提供: アメリカ合衆国政府が使用、複製、開示する場合は、FAR Sections 12.212、52.227-14 及び 52.227-19(c)(1)及び(2)、ならびに DFARS Section 252.227-7014(b)(3) または、これらの後継の条項に規定される該当する制限に従うものとします。

Copyright © 2013 CA. All rights reserved. 本書に記載された全ての製品名、サービス名、商号およびロゴは各社のそれぞれの商標またはサービスマークです。

## CA Technologies 製品リファレンス

このマニュアルが参照している CA Technologies の製品は以下のとおりです。

- CA eHealth®
- CA Embedded Entitlements Manager (CA EEM)
- CA IT Asset Manager (CA ITAM)
- CA ITCM (CA IT Client Manager)
- CA NSM (CA Network and Systems Management)
- CA Patch Manager
- CA Server Automation
- CA Service Desk Manager (CA SDM)
- CA Spectrum®
- CA SystemEDGE
- CA Systems Performance for Infrastructure Managers
- CA Virtual Assurance for Infrastructure Managers
- CA Software Delivery

## CA への連絡先

テクニカル サポートの詳細については、弊社テクニカル サポートの Web サイト (<http://www.ca.com/jp/support/>) をご覧ください。



# 目次

---

<b>第 1 章: はじめに</b>	<b>7</b>
<b>第 2 章: システム要件</b>	<b>9</b>
マネージャの要件.....	9
ハードウェア要件.....	10
ソフトウェア要件.....	11
CA Virtual Assurance 用のオプションの CA ソフトウェア .....	15
CA Virtual Assurance AIM サーバおよび管理対象ノードの要件 .....	15
管理対象ノードおよび AIM サーバのハードウェア要件.....	16
SystemEDGE のオペレーティング システム サポート.....	17
CA Virtual Assurance AIM のオペレーティング システム サポート .....	19
CA Systems Performance LiteAgent のオペレーティング システム サポート.....	22
サポートされている統合プラットフォーム .....	24
Active Directory および Exchange Server .....	24
Cisco Unified Computing System (UCS) .....	25
Citrix XenDesktop.....	25
Citrix XenServer.....	25
Huawei GalaX.....	25
AIX 用 IBM PowerHA.....	25
IBM Power VM (論理パーティション、LPAR) .....	26
Microsoft Cluster (MSCS) .....	26
Microsoft Hyper-V Server .....	27
Oracle Solaris ズーン.....	27
Red Hat Enterprise Virtualization.....	27
VMware vCenter Server .....	28
VMware vCenter Site Recovery Manager .....	28
VMware vCloud.....	29
国際化 (i18n) .....	29
<b>第 3 章: 新しい機能および拡張機能</b>	<b>33</b>
Citrix XenDesktop AIM .....	33
ドキュメント.....	34
Huawei GalaX.....	34
キーパフォーマンス データベース .....	35

---

Oracle Solaris ズーン .....	35
ソフトウェア要件 .....	36
ユーザ インターフェース .....	36
VMware vCenter .....	37
<b>第 4 章: パッチおよび発行済みの修正プログラム</b> .....	<b>39</b>
SNMPv3 トラップの転送の問題 .....	39
<b>第 5 章: マニュアル</b> .....	<b>41</b>
関連ドキュメント .....	41
<b>第 6 章: 既知の問題</b> .....	<b>43</b>
ローカライズされた Service Desk テンプレート名が切り捨てられる .....	43
ログインプロセスが遅い .....	44
Mozilla Firefox の自動アップグレード .....	44
<b>付録 A: 使用条件</b> .....	<b>45</b>
サードパーティ製ソフトウェアの使用条件 .....	45

# 第 1 章: はじめに

---

「CA Virtual Assurance リリース ノート」では、本リリースでの新機能と拡張機能、製品インストールの前提条件、およびサードパーティ ツールとの統合について詳しく説明します。

最新の「CA Virtual Assurance リリース ノート」については、CA サポート オンラインで[マニュアル選択メニュー](#)を参照してください。

CA Virtual Assurance をインストールする方法の詳細については、「インストール ガイド」を参照してください。全ドキュメントセットの簡単な説明については、このガイドの「関連ドキュメント」の章参照してください。



## 第 2 章: システム要件

---

CA Virtual Assurance を正常にインストールして動作させるには、システムがこのセクションの要件を満たすか、上回っている必要があります。

この製品は、TCP/IP、SNMP、DNS（Domain Name Service、ドメイン名サービス）などのネットワーキングテクノロジーを使用しています。これらのテクノロジーが利用できない、失敗する、パフォーマンスが低下している、またはテクノロジーに不正確な情報や期限切れの情報が含まれる場合、製品機能に悪影響が及ぶ可能性があります。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[マネージャの要件 \(P. 9\)](#)

[CA Virtual Assurance 用のオプションの CA ソフトウェア \(P. 15\)](#)

[CA Virtual Assurance AIM サーバおよび管理対象ノードの要件 \(P. 15\)](#)

[サポートされている統合プラットフォーム \(P. 24\)](#)

[国際化 \(i18n\) \(P. 29\)](#)

### マネージャの要件

このセクションでは、CA Virtual Assurance リリース 12.8 のマネージャをインストールするためのハードウェアとソフトウェアの要件について詳しく説明します。

## ハードウェア要件

CA Virtual Assurance コンポーネントの分散実装または非分散実装には、以下のハードウェアが必要です。

- CPU : Intel Xeon 51xx 2.6 GHz または相当プロセッサ、あるいは Intel Core 2 Duo 2.6 GHz または相当プロセッサ

注: CPU 要件は、CA Virtual Assurance の Web ブラウザベースの UI を実行する、クライアントデスクトップ/ワークステーションにも該当します。

- RAM :
  - 1,000 以下のシステムを管理する展開 : 4GB
  - 5,000 以下のシステムを管理する展開 (64 ビット オペレーティング システム上) : 8GB
  - 5,000 以上のシステムを管理する展開 (64 ビット オペレーティング システム上) : 16GB
- ネットワーク インターフェース コントローラ (NIC) : 100 Mbps 以上
- メインのインストール ドライブのディスク空き領域 : 30 GB
- データベースをインストールするドライブのディスク空き領域 : 30 GB

注: さらに、パフォーマンス チャートのデータ収集では、モニタされているマシンとメトリックの数に応じて、マネージャ上で最大 3.5 GB のディスク領域と 2 GB の RAM が必要になる場合があります。

- アップグレード用のディスク空き領域 : 30 GB 以上 (既存のデータベース サイズによる)

注: Virtual Assurance のデータベースを格納するように Microsoft SQL Server を設定した場合は、データベースを保持するドライブにディスク領域が必要です。ドライブの場所は任意です。製品のインストールに使用したのと同じドライブにすることもできれば、別のドライブ、または別のシステム上のドライブを選ぶこともできます。製品をインストールしたのと同じドライブにする場合、必要なディスクの空き領域は 2 つの値の合計です。製品用のデータベースのサイズは、製品の使用状況に応じて大きくなります。保守の実施状況によりませんが、30 GB 以上を消費する可能性があります。

**重要:** CA Virtual Assurance をその他の CA 製品と一緒にインストールする場合は、組み合わせによる影響を考慮し、それに応じてハードウェアの仕様を調整してください。たとえば、1 つのサーバに CA Virtual Assurance (4 GB の RAM) および CA Service Desk Manager (3 GB の RAM) をインストールする場合、最低 7 GB の RAM を備えたサーバを使用します。CA サポート オンラインの Web サイト (<http://supportconnect.ca.com>) で、統合製品のリリース ノートを確認してください。

## ソフトウェア要件

このセクションでは、分散コンポーネントおよび非分散コンポーネントの実装に必要なソフトウェアに関する情報を提供します。

### Windows 上のマネージャ

CA Virtual Assurance マネージャは、以下のオペレーティング システムをサポートし、これらのオペレーティング システムで動作が保証されています。

- Windows Server 2008 Standard、Enterprise、および Datacenter Edition (x86、x64)、SP2 オプション
- Windows Server 2008 R2 Standard、Enterprise、および Datacenter Edition (x86、x64)、SP1 オプション
- Windows Server 2012 Standard および Datacenter Edition (x64)

CA Virtual Assurance では、新規 SystemEDGE インストールに対して以下の Windows バージョンのみをサポートします。

- Windows Server 2003 SP2 および 2003 R2 SP2 Standard、Enterprise、および Datacenter Edition (x86、x64)

CA サポート オンラインの Web サイトにある[互換性マトリックス](#)には、サポートされているオペレーティング環境の最新のリストが掲載されています。

注: タイムゾーンをシームレスに操作するには、ご使用の分散コンピューティング環境が共通のタイムソース (NTP サーバ、GPS など) に同期されていることを確認します。

## データベース要件

CA Virtual Assurance はデータベースとして Microsoft SQL Server を使用します。CA Virtual Assurance は他の CA 製品と統合されるため、統合される製品のデータベース要件を確認してください。

このリリースでは、以下のバージョンをサポートしており、動作が保証されています。

- 2008 R2 (32 ビット、64 ビット)、Standard Edition および Enterprise Edition、SP1 オプション
- 2008 R2 Express (32 ビット、64 ビット)、Database with Management Tools Edition および Database with Advanced Services Edition、SP1 オプション
- 2012 (32 ビット、64 ビット)、Standard Edition および Enterprise Edition
- 2012 Express (32 ビット、64 ビット)、Database with Management Tools Edition および Database with Advanced Services Edition

ローカルまたはリモートの SQL Server データベースに接続するには、マネージャシステムに SQL Server Tools (OSQL.EXE) が必要です。

**重要:** SQL Server 2005 または SQL Server 2008 を使用する既存の 12.6、12.7、または 12.7.1 のインストールをアップグレードする場合、SQL Server をサポートされているバージョンにアップグレードしてください。次に、12.6、12.7、または 12.7.1 の製品が引き続き動作することを確認し、CA Virtual Assurance リリース 12.8 にアップグレードします。

以下の点に注意してください。

- 本製品を便利にお使いいただくために、SQL Server 2012 Express Edition (32 ビット) が、CA Virtual Assurance インストールメディア上の以下の場所で利用可能です：  
DVD1¥Installers¥Windows¥External¥MSSQLExpress¥SQLEXPRT\_x86\_ENU.exe
- 名前付きインスタンスおよび SQL Server クラスタはサポートされます。TCP/IP を有効にし、各インスタンスに静的ポートを割り当てます。動的ポートはサポートされていません。
- マネージャ コンポーネントがインストールされたシステムには、SQL クライアント (サーバツール) もインストールされている必要があります。
- SQL Server Tools をインストールした後、OSQL.EXE が以下の場所に正しくインストールされていることを確認します (デフォルトのインストールパスを使用する場合)：
  - MS SQL 2012 C:¥Program Files¥Microsoft SQL Server¥110¥Tools¥Binn

## リモート データベース

リモート データベースを使用している場合、一致する適切なバージョンの SQL Server Native Client がローカル システムで必要です。

### 例

- リモート 2008 R2、または R2 Express データベースには、ローカル 2008 R2 Native Client が必要です。リモートの 2012 データベースには、ローカル 2012 Native Client が必要です。

SQL Server Native Client は、Microsoft ダウンロードセンターで「Microsoft SQL Server 用 Feature Pack」を検索することで利用可能です。お使いのリモート データベースとオペレーティング環境に基づいて、以下の手順を実行します。

1. 最新の適切なバージョンを選択します。
2. オペレーティング環境用の適切なモジュールをダウンロードして、ローカル システムにインストールします。

例：ENU¥<x86 または x64>¥sqlncli.msi

## ブラウザの要件

CA Virtual Assurance は、ユーザ インターフェイス用に以下のブラウザをサポートしています。これらの Web ブラウザは、(製造元によって決定される) その Web ブラウザのライフサイクルの間、または CA Technologies がサポートを終了するまでサポートされます。

- Microsoft Internet Explorer 8.0、9.0

注：「このページのスクリプトが、Internet Explorer の実行速度を遅くしています。」というメッセージが表示された場合は、Microsoft サポート技術情報の記事 175500 を確認してください。

- Mozilla Firefox 16.0 (すべてのマイナー バージョンを含む)

CA Virtual Assurance で図やチャートを表示するには、Adobe Flash Player プラグインを備えたサポート対象ブラウザが必要です。以下のバージョンがサポートされています。

- Adobe Flash Player バージョン 10.0、11.1、11.4

注：CA Virtual Assurance では Adobe Flash Player のメジャー バージョンをサポートしています。マイナー バージョンも実行できますが、それらのバージョンは認定されていません。

## 必要な CA ソフトウェア

CA Virtual Assurance には、インストールメディアに含まれている以下のソフトウェアが必要です。

### CA Embedded Entitlements Manager (CA EEM)

CA Virtual Assurance は以下の CA EEM リリースを配布およびサポートし、これらと共に動作することが保証されています。

- CA EEM リリース 8.4 SP4 CR15 (8.4.415)
- CA EEM バージョン 12.0 CR 07 (12.0.7.57 以降)
- CA EEM リリース 12.5 (12.5.0.7)

注: CA EEM バージョン 12.0 を使用している場合は、次の機能がサポートされていません: CA EEM インストール、ネイティブセキュリティを使用した CA EEM ユーザ作成、および LDAP サービスの CA EEM 設定。これらのアクションを実行するには、CA EEM UI から手順を実行し、CA EEM の手順に従います。

注: CA EEM 12.5 を使用している場合は、CA EEM インストールはサポートされていません。

注: CA EEM FIPS モードはサポートされていません。

CA Virtual Assurance は以下もサポートします。

- すべての「CA EEM 8.4」サブバージョン - CA EEM 8.4 SP4 (8.4.244) 以降の配布バージョン、新しい「CA EEM 8.4」SP まで。
- この製品のリリースの後にリリースされる CR サブバージョン。

インストール時に CA EEM の不十分なバージョンが検出された場合、サポートされているバージョンにアップグレードできるように、インストールプログラムによって最小要件が表示されます。

サポートを要求する、この製品と CA EEM の別バージョンとの動作を確認する場合は、CA 担当者にお問い合わせください。

注: サイトに CA Server Automation または CA Virtual Assurance のインスタンスが複数ある場合、CA EEM サーバは共有できません。

注: この製品によって CA EEM がインストールされる場合、[TLS を使用] オプションは、デフォルトでは有効になりません。セキュリティを高めるためには、CA EEM インターフェースへログインし、[設定] タブで TLS オプションを選択します。

### CA Network Discovery Gateway

このソフトウェアは、システムおよびネットワークのディスカバリに必要です。

## SystemEDGE

CA Virtual Assurance リリース 12.8 は SystemEDGE リリース 5.8 と共に提供されます。

リリース 5.x.y は CA Virtual Assurance リリース 12.x.y に対応します。

**例：** SystemEDGE 5.7.1 は CA Virtual Assurance 12.7.1 に対応します。

**注：** 最新バージョンの SystemEDGE がシステムにインストールされていない場合、インストールプログラムによって SystemEDGE がインストールされます。 SystemEDGE は CA Virtual Assurance AIM に必要です。 AIM は SystemEDGE エージェントの機能拡張です。

環境内のリモート サーバの管理には、SystemEDGE リリース 4.3.4、4.3.5、4.3.6、5.1.0、5.6.0、5.7.0、5.7.1、5.8 を使用できます。

## CA Virtual Assurance 用のオプションの CA ソフトウェア

以下に示すオプションの CA ソフトウェアをインストールし、CA Virtual Assurance を適切に設定することで、特定の統合機能を有効にすることができます。

### CA Service Desk Manager

ヘルプデスクのチケットをオープンするには、バージョン 12.5 以降が必要です。

## CA Virtual Assurance AIM サーバおよび管理対象ノードの要件

このセクションでは、AIM サーバまたは管理対象ノードによってサポートされるハードウェア要件およびオペレーティングシステムについて詳しく説明します。

## 管理対象ノードおよび AIM サーバのハードウェア要件

SystemEDGE および AIM のハードウェア要件は以下のとおりです。

### 最小要件

CPU : OS ベンダーと同じ

RAM : OS ベンダーと同じ

空きディスク領域 : 50 MB (管理対象ノード、SystemEDGE のみ\*)

空きディスク領域 : 250 MB (CA Virtual Assurance AIM をすべてインストールした AIM サーバ)

ネットワーク インターフェース コントローラ (NIC) : 100 Mbps

### 推奨

CPU : OS ベンダーと同じ

RAM : OS ベンダーと同じ

空きディスク領域 : 150 MB 以上 (管理対象ノード、SystemEDGE のみ\*\*)

空きディスク領域 : 500 MB (CA Virtual Assurance AIM をすべてインストールした AIM サーバ)

ネットワーク インターフェース コントローラ (NIC) : 100 Mbps 以上

(\* ) ディスク領域要件は、UNIX プラットフォームと Windows プラットフォームでは異なります。Windows をインストールする場合、MSI インストーラは、SystemEDGE をインストールするディスク領域を必要とします。

(\*\*) 診断トレースが有効である場合、ランタイム ファイルのディスク領域の要件は大きくなります。デフォルトでは、診断トレースのサイズは 10 MB に制限されています。

## SystemEDGE のオペレーティング システム サポート

SystemEDGE リリース 5.8 を実行するシステムには、以下のいずれかのオペレーティング システムが必要です。

### Windows

- Windows Server 2003 SP2 Standard、Enterprise、Datacenter、および Small Business Server Edition (32 ビット、x86)
- Windows Server 2003 R2 SP2 Standard、Enterprise、および Datacenter Edition (32 ビット、x86)
- Windows Server 2003 SP2 Standard、Enterprise、および Datacenter (64 ビット、x64)
- Windows Server 2003 R2 SP2 Standard、Enterprise、および Datacenter Edition (64 ビット、x64)
- Windows Server 2003 SP2 x64 Edition (64 ビット)
- Windows Server 2008 Standard、Enterprise、および Datacenter Edition (32 ビット、x86)
- Windows Server 2008 Standard、Enterprise、および Datacenter Edition (64 ビット、x64)
- Windows Server 2008 R2 Standard、Enterprise、および Datacenter Edition (64 ビット、x64)
- Windows Server 2012 Standard および Datacenter Edition (64 ビット、x64)
- Windows XP Professional SP3 (32 ビット、x86)
- Windows Vista SP1 Business、Enterprise、および Ultimate Edition (32 ビット、x86)
- Windows Vista SP1 Business、Enterprise、および Ultimate Edition (64 ビット、x64)
- Windows 7 Professional、Ultimate Edition (32 ビット、x86)
- Windows 7 Professional、Ultimate Edition (64 ビット、x64)

### HP

- HP-UX 11.11 PA-RISC (64 ビット)
- HP-UX 11.23 PA-RISC (64 ビット)
- HP-UX 11.23 ia64 (64 ビット)
- HP-UX 11.31 PA-RISC (64 ビット)
- HP-UX 11.31 ia64 (64 ビット)

### **IBM AIX**

- IBM AIX Version 6.1 (64 ビット)
- IBM AIX Version 7.1 (64 ビット)

### **Linux**

- Red Hat Linux Web Server、Advanced Server、および Enterprise Server 5.0 (32 ビット、x86)
- Red Hat Linux Web Server、Advanced Server、および Enterprise Server 5.0 (64 ビット、x64)
- Red Hat Enterprise Linux 6.0 (32 ビット、x86)
- Red Hat Enterprise Linux 6.0 (64 ビット、x64)
- SUSE Linux Enterprise Server 10.0 (32 ビット、x86)
- SUSE Linux Enterprise Server 10.0 (64 ビット、x64)
- SUSE Linux Enterprise Server 11 (32 ビット、x86)
- SUSE Linux Enterprise Server 11 (64 ビット、x64)
- Debian Linux Version 5.0 (Lenny) (32 ビット、x86)
- Debian Linux Version 5.0 (Lenny) (64 ビット、x64) - レガシー モードのみ
- Debian Linux Version 6.0 (Squeeze) (32 ビット、x86)
- Debian Linux Version 6.0 (Squeeze) (64 ビット、x64) - レガシー モードのみ

### **zLinux**

- SUSE Linux Enterprise Server 10 (zSeries) - レガシー モードのみ
- SUSE Linux Enterprise Server 11 (zSeries) - レガシー モードのみ
- Red Hat Enterprise Server 5.0 (zSeries) - レガシー モードのみ
- Red Hat Enterprise Server 6.0 (zSeries) - レガシー モードのみ

### **Linux on pSeries**

- SUSE Linux Enterprise Server 10
- SUSE Linux Enterprise Server 11
- Red Hat Enterprise Server 5.0
- Red Hat Enterprise Server 6.0

## Solaris

注: SystemEDGE では、Solaris 10 およびでは、Solaris 11 オペレーティング システムのすべての Solaris ゾーンの設定をサポートします。

- Solaris UltraSPARC 9 (64 ビット)
- Solaris UltraSPARC 10 (64 ビット)
- Solaris 9 (32 ビット、x86)
- Solaris 10 (32 ビット、x86)
- Solaris 10 (64 ビット、x64)
- Solaris 11 (32 ビット、x86)
- Solaris 11 (64 ビット、x64)

注: 展開や設定などの CA Virtual Assurance に固有の機能は、すべてのプラットフォームでサポートされていない場合があります。

## CA Virtual Assurance AIM のオペレーティング システム サポート

CA Virtual Assurance に付属の SystemEDGE AIM と Advanced Encryption は、以下のオペレーティング システムで実行できます。

### Windows : Advanced Encryption

- Windows XP Professional SP3 (32 ビット、x86)
- Windows Vista Business、Enterprise、Ultimate SP1 (32 ビット、x86)
- Windows Vista Business、Enterprise、Ultimate SP1 (64 ビット、x64)
- Windows 7 Professional、Ultimate (32 ビット、x86)
- Windows 7 Professional、Ultimate (64 ビット、x64)
- Windows Server 2003 SP2 Standard、Enterprise、Datacenter、および Small Business Server Edition (32 ビット、x86)
- Windows Server 2003 SP2 x64 Edition (64 ビット)
- Windows Server 2003 R2 SP2 Standard、Enterprise、および Datacenter Edition (32 ビット、x86)
- Windows Server 2003 R2 SP2 Standard、Enterprise、および Datacenter Edition (64 ビット、x64)

- Windows Server 2008 Standard、Enterprise、および Datacenter Edition (32 ビット、x86)
- Windows Server 2008 Standard、Enterprise、および Datacenter Edition (64 ビット、x64)
- Windows Server 2008 R2 Standard、Enterprise、および Datacenter Edition (64 ビット、x64)
- Windows Server 2012 Standard および Datacenter Edition (64 ビット、x64)

**Windows : Cisco UCS AIM、Huawei GalaX AIM、IBM LPAR AIM、IBM PowerHA AIM、KVM AIM、リモート モニタリング AIM、Solaris ズーン AIM、vCenter Server AIM、vCloud AIM、XenServer AIM、XenDesktop AIM**

- Windows Server 2008 Standard、Enterprise、および Datacenter Edition (32 ビット、x86)
- Windows Server 2008 Standard、Enterprise、および Datacenter Edition (64 ビット、x64)
- Windows Server 2008 R2 Standard、Enterprise、および Datacenter Edition (64 ビット、x64)
- Windows Server 2012 Standard および Datacenter Edition (64 ビット、x64)

**Windows : Hyper-V AIM**

- Windows Server 2008 R2 Standard、Enterprise、および Datacenter Edition (64 ビット、x64)

**HP : Advanced Encryption、サービス レスポンス モニタリング AIM**

- HP-UX 11.11 PA-RISC (64 ビット)
- HP-UX 11.23 PA-RISC (64 ビット)
- HP-UX 11.23 IA64 (64 ビット)
- HP-UX 11.31 PA-RISC (64 ビット)
- HP-UX 11.31 IA64 (64 ビット)

**IBM AIX : Advanced Encryption、サービス レスポンス モニタリング AIM**

- IBM AIX Version 6.1 (64 ビット)
- IBM AIX Version 7.1 (64 ビット)

注: JRE は AIX 用 SRM AIM に付属しています。

**Linux : Advanced Encryption AIM**

- Red Hat Linux Web Server、Advanced Server、および Enterprise Server 5.0 (32 ビット、x86)
- Red Hat Linux Web Server、Advanced Server、および Enterprise Server 5.0 (64 ビット、x64)
- Red Hat Enterprise Linux 6.0 (32 ビット、x86)
- Red Hat Enterprise Linux 6.0 (64 ビット、x64)
- SUSE Linux Enterprise Server 10.0 (32 ビット、x86)
- SUSE Linux Enterprise Server 10.0 (64 ビット、x64)
- SUSE Linux Enterprise Server 11 (32 ビット、x86)
- SUSE Linux Enterprise Server 11 (64 ビット、x64)
- Debian Linux Version 5.0 (Lenny) (32 ビット、x86)
- Debian Linux Version 5.0 (Lenny) (64 ビット、x64) - レガシー モードのみ
- Debian Linux Version 6.0 (Squeeze) (32 ビット、x86)
- Debian Linux Version 6.0 (Squeeze) (64 ビット、x64) - レガシー モードのみ

**Linux : サービス レスポンス モニタリング AIM**

- Red Hat Linux Web Server、Advanced Server、および Enterprise Server 5.0 (32 ビット、x86)
- Red Hat Linux Web Server、Advanced Server、および Enterprise Server 5.0 (64 ビット、x64)
- Red Hat Enterprise Linux 6.0 (32 ビット、x86)
- Red Hat Enterprise Linux 6.0 (64 ビット、x64)
- SUSE Linux Enterprise Server 10.0 (32 ビット、x86)
- SUSE Linux Enterprise Server 10.0 (64 ビット、x64)
- SUSE Linux Enterprise Server 11 (32 ビット、x86)
- SUSE Linux Enterprise Server 11 (64 ビット、x64)
- Debian Linux Version 5.0 (Lenny) (32 ビット、x86)
- Debian Linux Version 6.0 (Squeeze) (32 ビット、x86)
- Debian Linux Version 6.0 (Squeeze) (64 ビット、x64) - レガシー モードのみ

**Solaris : Advanced Encryption、サービス レスポンス モニタリング AIM**

注: SystemEDGE では、Solaris 10 およびでは、Solaris 11 オペレーティング システムのすべての Solaris ゾーンの設定をサポートします。

- Solaris UltraSPARC 9 (64 ビット)
- Solaris UltraSPARC 10 (64 ビット)
- Solaris 9 (32 ビット、x86)
- Solaris 10 (32 ビット、x86)
- Solaris 10 (64 ビット、x64)
- Solaris 11 (32 ビット、x86)
- Solaris 11 (64 ビット、x64)

## CA Systems Performance LiteAgent のオペレーティング システム サポート

CA Systems Performance LiteAgent を実行するコンピュータは、以下のいずれかのオペレーティング システムが必要です。

**Windows**

注: CA Virtual Assurance 12.6 からアップグレードする場合にのみ、以下の Windows 2003 オペレーティング システムがサポートされています。

- Windows Server 2008 (32 ビット、x86)
- Windows Server 2008 (64 ビット、x64)
- Windows Server 2008 R2 (64 ビット、x64)
- Windows Server 2003 Standard、Enterprise、Datacenter、および Small Business Server Edition (32 ビット、x86)
- Windows Server 2003 (64 ビット、x64)
- Windows Server 2003 R2 Standard、Enterprise、および Datacenter Edition (32 ビット、x86)
- Windows Server 2003 R2 (64 ビット、x64)
- Windows XP Professional SP3 以降 (32 ビット、x86)
- Windows XP Professional SP2 以降 (64 ビット、x64)
- Windows Vista Business、Enterprise、Ultimate (32 ビット、x86)
- Windows Vista Business、Enterprise、Ultimate (64 ビット、x64)

### Linux

- Red Hat Linux Enterprise Server 5.0 (32 ビット、x86)
- Red Hat Linux Enterprise Server 5.0 (64 ビット、x64)
- SUSE Linux Enterprise Server 10.0 (32 ビット、x86)
- SUSE Linux Enterprise Server 10.0 (64 ビット、x64)

### Solaris

注: 展開や設定などの CA Virtual Assurance に固有の機能は、すべてのプラットフォームでサポートされていない場合があります。

- Solaris UltraSPARC 9 (32 ビット)
- Solaris UltraSPARC 9 (64 ビット)
- Solaris UltraSPARC 10 (64 ビット)
- Solaris 10 (32 ビット、x86)
- Solaris 10 (64 ビット、x64)

### HP

- HP-UX 11.23 PA-RISC (64 ビット)
- HP-UX 11.23 IA64 (64 ビット)
- HP-UX 11.31 PA-RISC (64 ビット)
- HP-UX 11.31 IA64 (64 ビット)

注: HP-UX 11 については、PHNE 27063 s700 800 11 ARPA Transport の累積パッチ以降を推奨します。このパッチは、HP-UX ライブラリのメモリの問題を解決します。

### IBM AIX

- IBM AIX Version 5.3 (32 ビット、64 ビット)
- IBM AIX Version 6.1 (64 ビット)
- IBM AIX Version 7.1 (64 ビット)
- IBM AIX Version 7 (64 ビット)

## サポートされている統合プラットフォーム

CA Virtual Assurance はユーザの環境で、仮想プラットフォームおよび物理プラットフォームと統合します。これらのプラットフォームを管理するには、適切な SystemEDGE AIM を CA Virtual Assurance マネージャ サーバまたは個別の AIM サーバにインストールおよび設定します。

### サポートされるプラットフォーム

[Active Directory および Exchange Server](#) (P. 24)  
[Cisco Unified Computing System \(UCS\)](#) (P. 25)  
[Citrix XenDesktop](#) (P. 25)  
[Citrix XenServer](#) (P. 25)  
[Huawei GalaX](#) (P. 25)  
[AIX 用 IBM PowerHA](#) (P. 25)  
[IBM Power VM \(論理パーティション、LPAR\)](#) (P. 26)  
[Microsoft Cluster \(MSCS\)](#) (P. 26)  
[Microsoft Hyper-V Server](#) (P. 27)  
[Oracle Solaris ズーン](#) (P. 27)  
[Red Hat Enterprise Virtualization](#) (P. 27)  
[VMware vCenter Server](#) (P. 28)  
[VMware vCenter Site Recovery Manager](#) (P. 28)  
[VMware vCloud](#) (P. 29)

## Active Directory および Exchange Server

Active Directory および Exchange Server のモニタリングを有効にするには、使用環境に以下の製品がインストールされていることを確認してください。

- .Net 3.5 以降のバージョン
- Power shell v2.0
- AIM ホスト上に Exchange Management Tools SP3 (Exchange Server 2007 のモニタリング用)

注: Exchange Management Tools SP3 は、Exchange Server 2010 のモニタリングには必要ありません。

## Cisco Unified Computing System (UCS)

Cisco UCS の管理を有効にするには、環境内に以下の製品がインストールされていることを確認します。

- Cisco UCS 1.3、1.4、2.0

## Citrix XenDesktop

Citrix XenDesktop の仮想管理を有効にするには、環境内に以下のコンポーネントがインストールされていることを確認してください。

- Citrix XenDesktop バージョン 5.6

## Citrix XenServer

Citrix XenServer の仮想管理を有効にするには、環境内に以下のコンポーネントがインストールされていることを確認してください。

- Citrix XenServer バージョン 6.0

## Huawei GalaX

Huawei GalaX のモニタリングおよび管理を有効にするには、環境内に以下のコンポーネントがインストールされていることを確認してください。

- Huawei GalaX8800 バージョン 1.0

## AIX 用 IBM PowerHA

AIX 用の IBM IBM PowerHA Cluster Manager (旧名称「HACMP」) のモニタリングを有効にするには、お使いの環境に以下のコンポーネントがインストールされていることを確認してください。

### IBM PowerHA 6.1

AIX バージョン 6.1 プラットフォーム用の IBM PowerHA により、クラスター、ノード、およびネットワーク インターフェース ステータスをモニタできます。

## IBM Power VM (論理パーティション、LPAR)

IBM LPAR の仮想管理を有効にするには、環境内に以下のコンポーネントがインストールされていることを確認してください。

### IBM AIX LPAR

IBM LPAR POWER5、POWER6、または POWER7 プラットフォームでは、AIX 上およびその管理対象システム上の論理パーティションを管理できます。

### IBM Hardware Management Console (HMC)

IBM POWER5、POWER6、または POWER7 プラットフォームの論理パーティションを管理するには、HMC V7R3.5、V7R7.1、V7R7.2、V7R7.3、または V7R7.4 をインストールします。

注: HMC V7R7.1 は POWER7 によってサポートされる最低レベルです。

### IBM Integrated Virtualization Manager (IVM)

論理パーティションを管理するために HMC の代わりに使用します。仮想 I/O サーバ (VIOS) 上で実行されます。バージョン 1.5、2.1、および 2.2 がサポートされています。

### IBM Virtual I/O Server (VIOS)

IBM Virtual I/O Server (VIOS) を使用すると、IBM AIX POWER5、POWER6、および POWER7 の論理パーティションを設定できます。

注: VIOS バージョン 1.5、2.1、および 2.2 がサポートされています。

## Microsoft Cluster (MSCS)

Microsoft クラスターの管理を有効にするには、ご使用のクラスタ環境が以下のサーバのいずれかに基づいていることを確認します。

- Windows Server 2003
- Windows Server 2008
- Windows Server 2008 R2

## Microsoft Hyper-V Server

Microsoft Hyper-V Server の仮想管理を有効にするには、環境内に以下のいずれかの製品が少なくとも 1 つインストールされていることを確認してください。

- Hyper-V Server 2008 R2 (64 ビット、x64)

**重要:** Microsoft Hyper-V については、管理する各物理 Microsoft Hyper-V Server に SystemEDGE および Microsoft Hyper-V AIM をインストールします。

## Oracle Solaris ゾーン

Oracle Solaris ゾーン サーバの仮想管理を有効にするには、環境内に以下のコンポーネントがインストールされていることを確認してください。

- Solaris ゾーンを管理するゾーン互換性を備えた Solaris 10 または 11。

## Red Hat Enterprise Virtualization

Red Hat Enterprise Virtualization の仮想管理を有効にするには、使用環境に以下のコンポーネントがインストールされていることを確認してください。

- RHEV 3.0

## VMware vCenter Server

VMware vCenter Server の仮想管理を有効にするには、以下のいずれかのコンポーネントが環境内にインストールされていることを確認してください。

### VMware ESX Server

VM セッションを作成するには、VMware ESXi Server バージョン 4.0、4.1、5.0、または 5.1 が必要です。

注: ESX サーバおよび ESXi サーバをサポートするには、vCenter Server が ESX サーバまたは ESXi サーバを管理するように設定されている必要があります。

### VMware vCenter Server

仮想マシンのクローン作成とマイグレート、および VMware vSphere または Virtual Infrastructure 環境の管理には、VMware vCenter Server version 4.0、4.1、5.0、または 5.1 が必要です。

注: VMware ツールによって VM が最適化されるので、VMware 環境内の各 VM に VMware ツールをインストールすることを強くお勧めします。VMware ツールがインストールされていない VM では、この製品の一部の機能が利用できないか、正しく動作しません。この理由により、VMware ツールがインストールされていない VM はサポートされていません。

## VMware vCenter Site Recovery Manager

VMware vCenter Site Recovery Manager を有効にするには、以下のいずれかのコンポーネントが環境内にインストールされていることを確認してください。

### VMware ESX サーバ/VMware ESXi サーバ

バージョン 5.0 以降が必要です。

注: ESX サーバおよび ESXi サーバをサポートするには、vCenter Server が ESX サーバまたは ESXi サーバを管理するように設定されている必要があります。

### VMware vCenter Server

VMware vCenter Server バージョン 5.0 以降が必要です。

注: VMware ツールによって VM が最適化されるので、VMware 環境内の各 VM に VMware ツールをインストールすることを強くお勧めします。VMware ツールがインストールされていない VM では、この製品の一部の機能が利用できないか、正しく動作しません。この理由により、VMware ツールがインストールされていない VM はサポートされていません。

## VMware vCloud

VMware vCloud の仮想管理を有効にするには、環境内に以下のコンポーネントがインストールされていることを確認してください。

- VMware vCloud Director 1.0、1.0.1、および 1.5
- VMware vCloud Director 5.1

## 国際化 (i18n)

CA Virtual Assurance は、UTF-8 文字エンコーディングを使用して言語固有の文字を表示する、国際化製品 (i18n) です。たとえば、入出力データ内のドイツ語の ü (ウムラウト)、フランス語の è (抑音アクセント)、日本語の文字を表示できます。

UTF-8 による文字のエンコーディングは、以下の領域などでサポートされています。

- オブジェクトやリソースの説明文
- メッセージ
- 管理可能なリソースに接続するためのユーザ名およびパスワード
- 正規表現 (SystemEDGE)

この製品のインストールは、サポートされているオペレーティング システムの英語版、フランス語版、ドイツ語版、日本語版、および中国語 (簡体字) 版でサポートされています。また、Windows については、オペレーティング システムでサポートされているバージョンの SQL Server (英語または該当するローカライズバージョン) を使用できます。

**重要:** UTF-8 エンコーディングを使用する製品ファイルを編集した場合は、必ず UTF-8 エンコーディングで保存するよう注意してください。英語以外のオペレーティング システムで、マルチバイト文字を使用している場合は、UTF-8 エンコーディングで保存する必要があります。Windows のメモ帳では、UTF-8 エンコーディングで保存できます。

## 一般的な制限事項

CA Virtual Assurance は他の CA 製品と統合可能のため、統合製品用の国際サポート声明を確認してください。

CA Virtual Assurance は、文字 'a - z'、'A - Z'、'0 - 9'、および '.' から構成されるホスト名またはクラスタ名のみをサポートします。ホスト名またはクラスタ名は、先頭文字をハイフン（「-」）にすることや、すべて数値にすることはできません。Windows システムの NetBIOS 名は、その DNS ホスト名と一致している必要があります。

CA Virtual Assurance は、次の場合、ASCII 文字のみをサポートします。

- SQL Server のホスト名（ホスト名の制約を受ける）、インスタンス名、ユーザー名、およびパスワード
- CA EEM/Security のホスト名（ホスト名の制約を受ける）、ユーザー名、およびパスワード
- ポリシー名を除く、すべての CA SystemEDGE パラメータ
- SystemEDGE 権限分離ユーザー（UNIX および Linux のみ）
- SNMP の読み取り、読み取り/書き込み、およびトラップのコミュニティ文字列
- %TEMP% 環境変数
- すべての CA Virtual Assurance コンポーネントのインストール先パス

## コンソール ディスプレイのカスタマイズ

言語固有の文字を含むコンソール データを表示する場合は、CLI コマンドの以下の前提条件を確認します。

- 使用しているオペレーティング システムで、適切な言語サポートが利用可能であることを確認します。
- コマンドまたは NodeCfgUtil ユーティリティの実行に使用する Windows コマンドプロンプト内で、Lucida Console フォントを有効にします。
- コマンドの実行に使用する UNIX または Linux コンソール内で、UTF-8 文字エンコーディングを有効にします。端末コンソール内で以下のコマンドを入力して、現在の言語設定を表示します。

```
echo $LANG
```

UTF-8 が無効な場合、コンソール ウィンドウで、たとえば以下のコマンドを入力します（適切な文字エンコーディングを使用してください：en\_US.UTF-8、ja\_JP.UTF-8、fr\_BE.UTF-8、de\_DE.UTF-8 など）。

```
LANG=en_US.UTF-8; export LANG
```

## AutoShell および CA Virtual Assurance CLI Autoshell コマンド

AutoShell および CA Virtual Assurance CLI コマンドでは、ISO 639\_3166 の組み合わせ（例：フランス語では fr\_FR）に基づいたロケール指定が可能な `-locale` スイッチがサポートされています。「リファレンスガイド」の「AutoShell の呼び出し」および「CLI コマンド」を参照してください。

## Solaris ゾーン稼働時間

Solaris ゾーンの稼働時間 (Uptime) MIB 属性 (`zoneAimStatZoneUpTime`) は、ASCII 文字のみをサポートする `DisplayString` として指定されます。ユーザインターフェース内の対応するフィールドでは UTF8 文字が表示されません。

## デフォルトのパッケージラッパー名

デフォルトのパッケージラッパー名はローカライズされておらず、すべてのサポート対象言語で「デフォルト」が読み込まれます。カスタムパッケージラッパー名では UTF-8 文字がサポートされています。

## サービスレスポンス モニタリング AIM 設定ファイル

言語固有の文字を追加するために `svcrsp.cf` 設定ファイルを変更する場合は、ご使用のテキストエディタが保存形式として UTF-8 をサポートしていることを確認します。ファイルの保存時に、テキストエディタによって UTF-8 バイトオーダーマークが挿入されると、SystemEDGE は、設定ファイルを読み取るときにバイトオーダーマークを無視します。

## SRM CLI コマンド

`svcwatch` CLI は、出力とコンソールのヘルプ情報のローカライズをサポートしています。

オプションの `-L` スイッチを使用すると、ユーティリティは、コンソールの現在のロケールと、利用可能な場合は言語カタログを検出します。言語カタログが見つからない場合、ユーティリティはデフォルト言語である英語に戻ります。

## Cisco UCS の制限

Cisco Unified Computing System (Cisco UCS) は、英語の文字のみをサポートします。UCS Manager では英語以外の文字が無効として扱われるため、CA Virtual Assurance では、サービスプロファイルやプールなどの UCS フィールド内のサポートされていない文字は許可されません。

### Business Objects レポート

Business Objects レポートを使用するには、英語または日本語版の Microsoft SQL Server が必要です。他の言語はサポートされていません。

### インストール時の制限

パラメータ `-L` ロケール (`Install.exe -L fr` など) を使用することにより、サイレントインストール用の言語を指定できます。サポートされているロケールは、`en` (英語)、`ja` (日本語)、`de` (ドイツ語)、および `fr` (フランス語) です。ロケールを指定しないと、インストーラは、最も適切なもの (システム ロケールまたは英語 (`en`)) を選択します。

中国語のシステムでない限り、指定する DVD インストールパスに漢字を含めることはできません。中国語のシステム以外で漢字を指定すると、インストーラは以下のメッセージを表示し、失敗します。

Unable to extract the compressed file. Please get another copy of the installer and try again.

# 第 3 章: 新しい機能および拡張機能

---

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[Citrix XenDesktop AIM](#) (P. 33)

[ドキュメント](#) (P. 34)

[Huawei GalaX](#) (P. 34)

[キーパフォーマンス データベース](#) (P. 35)

[Oracle Solaris ズーン](#) (P. 35)

[ソフトウェア要件](#) (P. 36)

[ユーザインターフェース](#) (P. 36)

[VMware vCenter](#) (P. 37)

## Citrix XenDesktop AIM

このリリースでは、以下の新機能または変更が利用可能です。

### Citrix XenDesktop モニタリング

CA Virtual Assurance は Citrix XenDesktop 5.6 環境をモニタします。

### マルチインスタンス

XenDesktop AIM は複数の XenDesktop 環境を管理できます。

## ドキュメント

このリリースのドキュメントには、製品詳細、サポート資料、および研修サービスなどの、シナリオおよび補足情報へのリンクがあるエンドツーエンドのマニュアル選択メニューが含まれています。

マニュアル選択メニューは、[スタート]メニューから直接開くか、またはオンラインヘルプやローカルヘルプのナビゲーションペインで[マニュアル選択メニューへ戻る]をクリックして開くことができます。

以下のシナリオとユースケースがドキュメントに追加され、マニュアル選択メニューから直接アクセスできます。

- **SQL Server** ユーザ権限を必要最小限に調整する方法
- **OVF** パッケージをインポートする方法
- **GalaX** のプロビジョニング用に **Windows** テンプレートを準備する方法

パフォーマンスメトリックの章は「リファレンスガイド」から削除されました。マニュアル選択メニューページから新しいパフォーマンスメトリックリファレンスに直接アクセスできます。

## Huawei GalaX

このリリースでは、以下の新機能または変更が利用可能です。

### Huawei GalaX のモニタリング

CA Virtual Assurance は Huawei GalaX 環境をモニタします。

### Huawei GalaX の管理

CA Virtual Assurance は Huawei GalaX 環境を管理します。

### マルチインスタンス

SystemEDGE GalaX AIM は複数の Huawei GalaX 環境を管理できます。

## キー パフォーマンス データベース

このリリースでは、以下の変更が利用可能です。

### キー パフォーマンス DB

パフォーマンス メトリックを収集します。収集されたメトリックは、パフォーマンス チャートに表示されます。該当する説明がツールヒントに表示されます。キー パフォーマンス DB により以下が提供されます。

- 共通の設定を使用して最大 100 万メトリックまで格納できる、拡張性の高いソリューション。
- ストレージ領域の効率的な利用と I/O 使用率の低減
- 以下の情報を提供するユーザ フレンドリーなインターフェース：
  - 分類されたメトリック
  - ローカライズされたメトリック名および説明
  - すべてのメトリック タイプの単位

注: パフォーマンス メトリックおよび説明のリストについては、「Performance Metrics Reference」を参照してください。

**重要:** キー パフォーマンス データベースはパフォーマンス データを収集します。前のリリースでパフォーマンス データを収集した収集エンジンは、互換性の理由により、まだ利用することができます。

## Oracle Solaris ゾーン

このリリースでは、以下の新機能が利用可能です。

### ゾーン CPU キャップ

CA Virtual Assurance は、CPU キャップ リソース コントロールで定義されたパーセント値に対して、CPU 使用率の制限をモニタします。

### Solaris 11

CA Virtual Assurance は Solaris 11 ゾーンをモニタします。

## ソフトウェア要件

このリリースでは、CA Virtual Assurance ソフトウェア要件に対する以下の変更を考慮してください。

- Windows Server 2012、CA EEM リリース 12 および 12.5、Microsoft SQL Server 2012 に対する CA Virtual Assurance マネージャ サポートが追加されました。
- Windows Server 2012 に対する SystemEDGE および AIM サポートが追加されました。
- Debian 6 に対する SystemEDGE、Advanced Encryption、およびサービス レスポンス モニタ サポートが追加されました。
- AIX 5.3 および Linux on IA64 に対する SystemEDGE サポートが削除されました。

## ユーザ インターフェース

このリリースでは、以下の新機能または変更が利用可能です。

### ローカライズされたユーザ インターフェース

ユーザ インターフェースは中国語（簡体字）と日本語で利用可能です。

### 製品バナー

ユーザ インターフェースの上部のセクションには以下の変更が含まれます。

- 検索はサービス テンプレートおよびアプリケーションを検索するために使用できます。

### パフォーマンス チャート

モニタ対象プラットフォームに対するパフォーマンス データ収集のグラフ表示を提供します。パフォーマンス チャートには、データ センターのパフォーマンスの最新の概要情報が表示されます。

### サポート エージェント

サポート エージェントは診断情報を収集します。サポート エージェントにアクセスするには、以下のアドレスを使用します。

<http://<Manager Server>:8556>

## VMware vCenter

このリリースの CA Virtual Assurance では、以下の RSI 機能がサポートされます。

### OVF ファイルのインポート

CA Virtual Assurance は Open Virtualization Format (OVF) ファイルのインポートをサポートします。この機能を使用すると、OVF ファイルに基づいて VM および vApps を作成することができます。

注: OVF ファイルのインポートの詳細については、「リファレンス ガイド」を参照してください。

### VMware vCenter Site Recovery Manager 5

CA Virtual Assurance は VMware vCenter Site Recovery Manager (SRM) 5 をサポートします。



# 第 4 章: パッチおよび発行済みの修正プログラム

---

このバージョンの製品で、パッチおよび発行済みの修正プログラムが利用可能な場合があります。CA サポート オンライン Web サイト

(<http://supportconnect.ca.com>) にアクセスして、製品のインストールまたはアップグレードを進める前に、パッチをダウンロードするか、発行済みの修正プログラムを参照してください。パッチおよび発行済み修正プログラムは、Download Center の [Published Solutions] ペインから入手可能です。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[SNMPv3 トラップの転送の問題](#) (P. 39)

## SNMPv3 トラップの転送の問題

CA Virtual Assurance の SNMPv3 トラップを正常に受信するには、CA NSM イベントマネージャを特定の方法で設定する必要があります。CA NSM イベントマネージャが適切に設定されていない場合、処理中のトラップが終了します。

**重要:** CA NSM 11.1 の場合: CA の修正プログラム QO99777 および Microsoft の修正プログラム 931565 を適用する必要があります。

CA NSM の問題の詳細については、CA サポート オンライン

(<http://www.ca.com/jp/support/>) で修正プログラム番号 QO99777 を参照してください。[Technical Support]、[Download Center] の順にクリックし、[Quick Search] フィールドに修正プログラム番号 QO99777 を入力して、製品情報に関する報告を検索します。

また、Microsoft のサポート Web サイトでサポート技術情報の記事 931565 を検索する必要があります。この記事では、Windows Server 2003 ベースのコンピュータ上でサードパーティ製のセキュリティスキャンソフトウェアを実行したときに、WinSNMP アプリケーションが停止する状況について説明されています。



# 第 5 章: マニュアル

---

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[関連ドキュメント](#) (P. 41)

## 関連ドキュメント

CA Virtual Assurance のマニュアルは、次のマニュアルで構成されています。

### 管理ガイド

ユーザの環境の仮想リソースを管理するために、CA Virtual Assurance を管理および使用する方法を調査します。

### インストールガイド

簡単なアーキテクチャ情報、さまざまなインストール方法、インストール後の設定情報、および導入時の手順が含まれます。

### オンライン ヘルプ

CA Virtual Assurance ユーザ インターフェースを使用するためのウィンドウの詳細、および手順の説明を提供します。

### リファレンス ガイド

AutoShell、CLI コマンド、および MIB 属性に関する詳細情報を提供します。

### パフォーマンス メトリック参照

サポート対象プラットフォームのシステム パフォーマンスのモニタリングに利用可能なパフォーマンス メトリックについて説明します。

### リリース ノート

オペレーティング システムのサポート、システム要件、発行済みの修正プログラム、各国語のサポート、既知の問題、およびドキュメントロードマップに関する情報を提供します。

### サービス レスポンス モニタリング ユーザ ガイド

SRM のインストールおよび設定の詳細が記載されています。

### SystemEDGE ユーザ ガイド

SystemEDGE のインストールおよび設定の詳細について説明します。

### SystemEDGE リリース ノート

オペレーティング システムのサポート、システム要件、および機能に関する情報を提供します。

## 第 6 章: 既知の問題

---

CA サポート オンライン上の *CA Virtual Assurance* リリース ノートには、発行後に検出された問題およびその他の情報が記載されています。

最新バージョンのリリース ノートについては、<http://www.ca.com/jp/support> にアクセスしてください。

1. CA サポート オンラインにログインします。
2. [Enterprise/Small and Medium Business] を選択します。
3. [Documentation] を選択します。
4. [Bookshelf] ドロップダウン リストから [CA Virtual Assurance Bookshelf] を選択して、[実行] をクリックします。
5. [Bookshelf] ウィンドウからリリース ノートを開きます。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[ローカライズされた Service Desk テンプレート名が切り捨てられる](#) (P. 43)

[ログインプロセスが遅い](#) (P. 44)

[Mozilla Firefox の自動アップグレード](#) (P. 44)

### ローカライズされた Service Desk テンプレート名が切り捨てられる

症状:

CA Virtual Assurance が CA Service Desk (CA Service Desk Manager) と統合されていて、Service Desk テンプレート名がローカライズされる場合、テンプレート名は切り捨てられることがあります。CA Service Desk Manager は、最大長を超えるテンプレート名を処理できません。テンプレート名の最大長は 30 文字の半角文字または 15 文字の全角文字です。

解決方法:

テクニカル サポート問題を解決し、テスト修正パッチをリクエストします。問題番号 USRD 2248 をレポートします。

## ログインプロセスが遅い

### 症状:

ユーザ管理が Active Directory に接続する場合、ログインプロセスに時間がかかる場合があります。

### 解決方法:

CA EEM は、デフォルトの LDAP ポート 389 を使用して、Active Directory をバインドできます。ログインに時間がかかる場合は、グローバルカタログポート 3268 に変更します。

### 次の手順に従ってください:

1. CA EEM を開始します。  
ログインページが表示されます。
2. アプリケーションとして「AIP」、ユーザとして「EiamAdmin」を選択し、ログインします。  
ユーザインターフェースが表示されます。
3. [設定] - [EEM サーバ] を選択します。  
[EEM サーバ] ペインが表示されます。
4. [グローバルユーザ] / [グローバルグループ] を選択します。  
ユーザインターフェースに [グローバルユーザ] / [グローバルグループ] のプロパティが表示されます。
5. [ポート番号] を「3268」に変更し、[保存] をクリックします。  
変更は直ちに有効になります。この変更後、いずれかのサービスをリサイクルする必要はありません。

## Mozilla Firefox の自動アップグレード

### 症状:

Mozilla Firefox ブラウザのアップグレード後に、CA Virtual Assurance Web アプリケーションを使用すると、ページレンダリングの問題が発生する場合があります。

### 解決方法:

Mozilla Firefox は自動的にアップグレードされた可能性があります。ページレンダリングの問題が発生した場合は、ブラウザがアップグレードされたかどうかを確認し、ブラウザのキャッシュをクリアします。

# 付録 A: 使用条件

---

この付録には、CA Virtual Assurance で使用されるサードパーティ製ソフトウェアの著作権および使用許諾契約情報が含まれます。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[サードパーティ製ソフトウェアの使用条件 \(P. 45\)](#)

## サードパーティ製ソフトウェアの使用条件

このセクションでは、サードパーティ製ソフトウェアの使用条件に関する情報が提供されます。サードパーティ使用許諾契約は、CA マニュアル選択メニュー内の ¥Bookshelf Files¥TXT フォルダで利用可能です。

- ActiveMQ 5.4.2
- Adobe Flex SDK
- AIX JRE
- Apache Axis2 1.5.2
- Apache HTTP Web Server 2.2.23
- Apache Software Foundation
- Apache Solr 1.4.1
- Apache Tomcat 6.0.36
- base64 0.00.00B
- Boost 1.42
- bzip2 1.0.2
- Castor 0.9.5.4
- concurrent utilities 1.3.4
- curl 7.25.0
- Eclipse BIRT Runtime v. 2.3.2.2
- Expat 2.0.1
- GNUPlot 6.4
- Hibernate 3.2.2
- HP-UX JRE 6.0.14 PA-RISC

- HSQLDB 1.8
- ICU4C 3.4
- ipmitool 1.8.10
- JAXB 2.1
- JAXP 1.4.2
- JGoodies Looks 2.2.0
- JSMin
- json-lib 2.4
- JSW v.3.2.3
- JXTA 2.3.6
- libarchive 3.0.2
- libcurl 7.21.0 and libcurl 7.21.1
- libssh2 1.2.6
- libtorrent 0.15.7
- Libxml2 2.7.7、Libxml2 2.7.8、Libxml2 2.8.0、および Libxml2 2.9.0
- Libxslt 1.1.24
- MIT Kerberos v5 release 1.4
- Mod\_gsoap 0.7
- NetApp NMSDK 4.0
- Netscape Portable Runtime 4.7.1
- netx 0.5
- node.js 0.4.12
- NUNIT 2.2.8
- OpenFire 3.7.1
- OpenLDAP 2.1
- openSSH for Windows CE 0.0.2 Alpha
- OpenSSL 0.9.8g, 0.9.8h, 0.9.8j, and 0.9.8o
- OpenSSL 0.9.8r and OpenSSL 0.9.8u
- OpenSSL 0.9.8x
- opensman 2.0
- Oracle JDBC Driver 10G Release 2

- Oracle JDK 1.6.0\_43
- Oracle JRE v.1.6
- PCRE 8.1 and PCRE Library 8.12
- Pegasus 2.7
- Perl 5.12.2
- PHP 5.3.13
- POCO 1.3.2
- PuTTY 0.60
- py2exe for Python 2.6.x 0.6.9
- Python 2.6
- Rhino 1.6R4
- swfobject 2.1
- Ubuntu 10.04
- VIX API
- Windows Installer XML (WiX)
- Zlib 1.2.3 and Zlib 1.2.5